別 紙

第 10 回みんなで創る自治基本条例市民会議
（平成 17 年 9 月 6 日）

各班の意見内容

1班

ホワイトボード板書

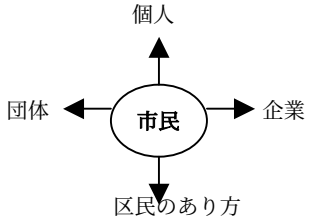
まちづくりにかかわる人

・勤めている人･･･市民でなくても企業に勤めていれば参加できるか？
（住所がなくて）　　町内会の事に意見を言えるのか？

①ＮＰＯの場合は…区外の人も参加出来る
⇩
役員はどうするか

②課題による
・上越市の条例づくりに新潟からも参加者あり…勉強のために
・旧頸城村の勉強会にも他町村から参加

③市民とは…
・基本は個々の参加である（主体）これを忘れてはいけない
個人がどのように参画できるか、しくみが大切
（文句だけの人の扱いはどうする）



（地域協議会の考え方）

※（町内会を通じて言うのではまちづくりではない）
・言ったことの責任と背景
・発言の勇気
・旧町内会のやり方がそのままである
・旧町村のあり方が現在の区の姿である

・町内会
・自治組織
・地域協議会
・ＮＰＯ等の任意団体

④意見を何処で吸い上げるか？ → 最後は行政なのか？
・意見の行き先はどこなの？
・地域協議会のあり方
・小さな町の寄り合い状態をかえる（自治基本条例で流す）

⑤合併後市民はどう感じているのか
・アンケートをとってほしい
・何が不満で何を要求しているのか

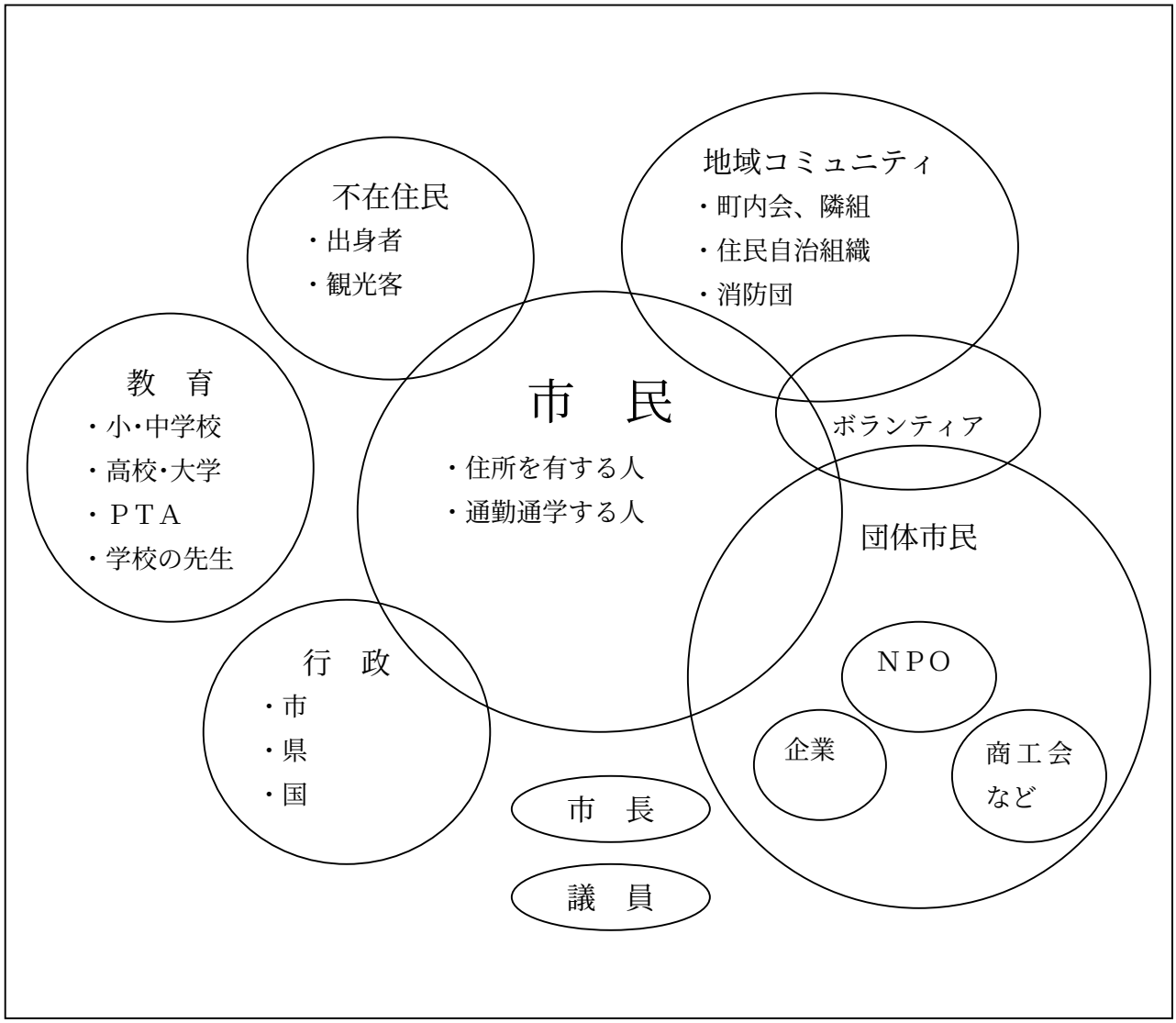
このままで良いか
⑥町内会の存在
旧上越では地域の町内会が集まって学習会をしている
ソフト的まちづくり
・町内会の定義
（若者の参加
女性の参加）
現在の町内　→　未来の町内会
例：安塚の場合→再編成した（子供・女性・年寄りも入れて）

発表内容

・市民でなくても、市内に勤めていればまちづくりに参加できるのではないか。
・ＮＰＯの場合は市外の人も参加できるわけであり、市外の人でもよいのではないか。
・結論から述べると、市民とは誰かということをことさら考える必要はないのではないか。市民とは一個人であり、団体であり、組織であり、要するに全部である。
・忘れてはならないのは、基本は個々の参加であり個人である。組織や団体が主役ではなく、個人が主役である。この個人が組織や団体に所属することによって、その組織や団体もまちづくりに参加することになる。これを忘れると、当の大きな目標を見失ってしまう。
・問題は、個人がどのようにまちづくりに参加できるか、この仕組みをどう作るかということであり、これが非常に大切ではないか。
・中には文句だけ述べる人もいるが、この人も市民であり、このような人をどのようにして扱うかということも考えていかなければならない。
・現実的にみて、個人が全て所属している団体は何かというと、それは町内会である。しかし、町内会を通じてのまちづくりでよいのかと考えると、それは少し違うのではないか。
・町内会の現状から言えば、町内会は市民参加を抑えるような仕組みになっている。町内会を通じないでまちづくりに参加できるような仕組みを作れないだろうかと考えると、自治組織であり、地域協議会などではないか。
・福祉の助け合いとか、まちを綺麗にする、祭りを開催するなどのソフト的な助け合いの面からのまちづくりもある。このようなまちづくりはどのようにして行うかといえば、町内会を通じての場合もあり、まちづくり協議会を組織してまちづくりを行っているところもある。これらについても今後考えていく必要があるのではないか。
・まちづくりについての意見をどこで吸い上げるかということを考えると、最後は行政ということになるだろうが、行政に行く前に地域協議会というものも市民の意見を吸い上げるという部分として、そのあり方を考えていく必要があるのではないか。
・全体の話として、合併して数ヶ月が経過し、市民はどう感じているのかということも踏まえたうえで今後の方向性を見つめていくべきではないか。市で実施しているアンケートの結果を踏まえて考えていくのがよい。
・前述の町内会の問題について、若者や女性が参加でき、住民の意見がスムーズに通るような新しい町内会の定義を作って、それをまちづくりに使うという方法も１つあるのではないか。理想形ではあるが、「現在の町内会」から「未来の町内会」へと変えていくということである。
・しかし、そうは言っても現実を見ると役員のなり手がおらず、あるいは１年交代の町内もあり、一概に良いかどうかは非常に難しい。このようなことも含めて、町内会の役割と性格について再検討し、そのうえでまちづくりにどのように関わらせるかということを、今後自治基本条例づくりの中では考えていかなければならないのではないか。
・地域協議会については、どのようなことが話し合われていて、何がどうなっているかということを住民に知らせる工夫が必要ではないか。市のホームページに載っているというだけではなく、もっと積極的に市から情報を提供する工夫が必要である。
・「まちづくりの担い手は誰か」という重要な部分の検討をしており、そろそろ、第１回目として我々市民会議が今このようなことを考えている、ということを全市民に何かしら知らせる時期に来ているのではないか。

２班

ホワイトボード板書

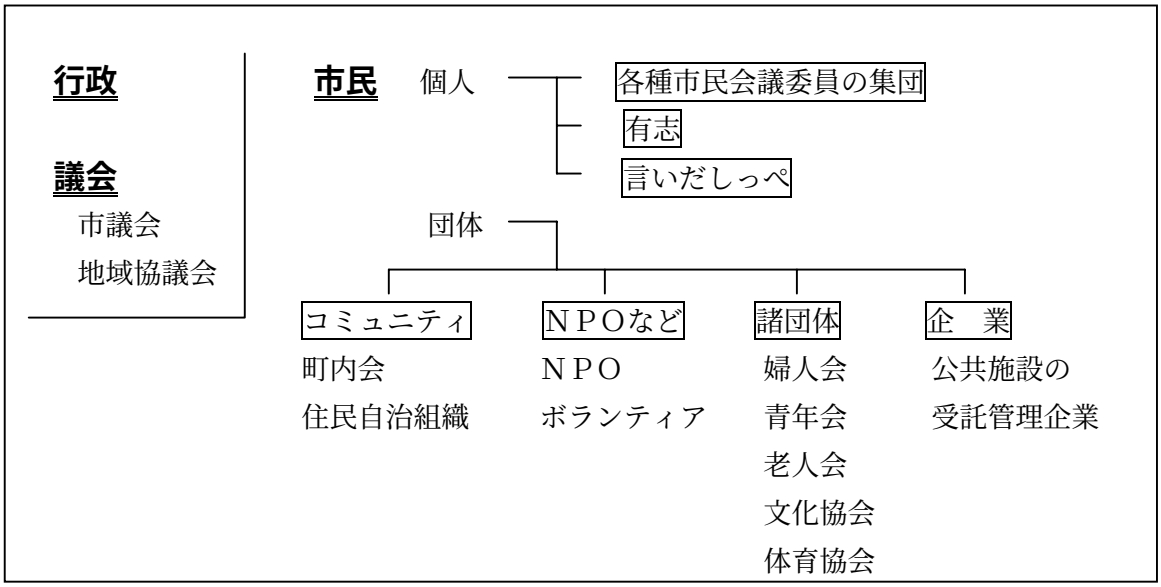


発表内容

・前回はポストイットで羅列する作業をしたが、今回はわかりやすく図で表した。
・市民から見た関わり方ではなく、市民の周りのコミュニティや団体、行政から見てどう関わっていくかということから考えた。
・「不在住民」とは、上越市の出身者、あるいは外から来る観光客のことを言っており、これらの方々との関わりや交流という視点で考えてみた。これらの方々から見た客観的な意見が、その観光地などのまちづくりに大いに役立っている例もあり、また観光収入という面で経済的にも観光地を支えていってくれるのではないか。
・「行政」については、市・県・国と挙げたが、県と国は市とは少し違うという観点から、市について考えてみた。行政はお金、人材、力、知識を備えており、なんと言ってもまちづくりの担い手になるのではないか。行政の力を地域のほうに貸してもらいたいという声もあることから、今後は行政は市民にとってのアドバイザー的な立場に立っていくようになるのではないか。
・「教育」については、各小・中学校、高等学校、大学とあるが、そこに携わる人達もまちづくりの担い手になるのではないか。上越地域には 2 つの大学があるが、そうした教育機関自体もその地域の魅力になっていき、まちづくりに役立っていくのではないか。
・「地域コミュニティ」は、現在最も大切な、身近な役割を果たしている団体・組織であり、これは何を置いても欠かせないまちづくりの担い手ではないか。
・「団体市民」と名付けたが、この中にはＮＰＯ、企業、商工会などがある。
    ・「ＮＰＯ」は特定分野で様々な情報を蓄積したグループであり、これからのまちづくりには欠かせない担い手ではないか。
    ・「企業」は、市民生活を支えていくうえでなくてはならないものであり、また、様々な企業が地域に出てボランティア活動などによりまちに溶け込んでいることもあることから、企業もまちづくりの担い手になっていくのではないか。
    ・各地域の「商工会」は、地域の活性化に大きな力を持っており、時代の担い手になっていくのではないか。
    ・これらに共通する部分が、「団体市民」としてのまちづくりの担い手として力強いものがあるのではないか。

３班

模造紙板書



発表内容

・前回思いつくままに挙げた「まちづくりの主体」について、項目を整理した。整理の方法としては、分類の確認、何が重要か、抜けているものはないか、という点について確認をしながら、各委員の意見を聞き整理を行った。

・まちづくりの主体について、「行政」、「議会」、「市民」と大きく３つに分類した。「行政」と「議会」はそのものであるので、「市民」について話し合いをした。

・地域協議会を「議会」の中に入れたが、これについては議決権のない地域協議会を「議会」に入れるのはふさわしくないのでは、との意見もあった。

・「市民」については、「個人」と「団体」に分類した。

　・「個人」については、新たに挙がった意見として、我々のような各種市民会議の委員もまちづくりの担い手になるのではないか、また、何かを行う際の「有志」や「よし、やろう！」というリーダーになる人の意味で「言いだしっぺ」も担い手になるのではないか。

　・「団体」については、町内会、住民自治組織、振興会などの「コミュニティ」、ＮＰＯやボランティアなどの「ＮＰＯなど」、婦人会、青年会などの「諸団体」（該当が多すぎるため、一部主なものをピックアップした）、公営施設の受託管理企業などの「企業」に整理をした。

　　・町内会は、何かを行う単位として大きなものである。

　　・ＮＰＯはそれぞれ目的別に集まっており、地域にとらわれずに自分が参加したいもの参加できる。

ホワイトボード板書

<table>
<tr><td colspan="2">市　民</td><td rowspan="2">行　政</td></tr>
<tr><td>コミュニティ
・個人を集めて窓口に
・私利私欲は×
・その中でも個人個人を尊重</td><td>個人・住民
・参加する意識を持とう
・発言･行動に責任を持つ
・世代にも配慮を
・生涯学習を
・行政に協力</td><td>・色々な意見を把握し、全体調整
・速やかな誠実な情報公開
・学ぶ機会の提供
・財源の確保</td></tr>
<tr><td colspan="3">共　通
・3 者の信頼にもとづく連携
・相互に情報、ノウハウ、知識を提供
・自由に参加と平等な扱い、立場
・小さな意見なども、必ず尊重
・人材･団体の育成</td></tr>
</table>

発表内容

・前回、まちづくりの主体は市民である、ということを確認した。今回はまちづくりに対するやる気のあるなしに関わらず、どのようにしてまちづくりに関わりを持たせていくか、ということで話し合いをした。

・「市民」については、「個人・住民」と「コミュニティ」に分けた。これらの「市民」とは別に「行政」について、それぞれでまちづくりに対してどのように関わっていくか、ということで意見を出し合い、整理をした。

　・「コミュニティ」については、個人を集めて窓口になるような役割を持つこと、私利私欲は求めないことが大切であり、また、コミュニティの中でも個人個人を尊重していかなければならないのではないか。

　・「個人・住民」については、参加する意識を持って関わること、発言や行動に各々が責任を持って関わること、子どもやお年寄りなど世代にも配慮して関わることが大切であり、また、各々が生涯学習に励み、生き生きとしていくことがまちづくりに繋がっていくのではないか。さらに、個人として行政に協力をしていかなければならないのではないか。

　・「行政」については、「コミュニティ」や「個人・住民」からの様々な意見を把握して全体の調整を図ること、速やかで誠実な情報公開を行うこと、まちづくりに関する学ぶ場・機会の提供が役割ではないか。また、財源の確保も行政の大きな役割ではないか。

　・これら 3 者に共通することとして、3 者の信頼に基づく連携が必要であること、相互に情報、ノウハウ、知識を提供しあっていくこと、自由にまちづくりに参加でき、平等な扱い、平等な立場でまちづくりを進めていくこと、小さな意見も必ず尊重するような仕組みを作ること、人材や団体を育成していくことが必要ではないか。

５班

ホワイトボード板書

（前回からの追加意見等）

・まちづくり振興会　…　今後様々な分野を担っていく

└ 行政に事務局を置いていては行政の下請けになってしまう

・町内会長連絡協議会　…　振興会がある中での存在意義

・新組織立ち上げ　…　しばらくは行政　いずれ独立が望ましい

「担い手」とは何か

・まちづくりの主体となる人（老若男女は関係ない）

・責任をもって動ける人

↓

担い手となりやすい環境をつくっていくことが大切

例えば　ボランティアに参加しやすい状況（職場の理解、税金低減）など

「まちづくり」とは

・行政がやること、市民がやること、地区別など、それぞれ違うもの

・全体としてひとつの筋があった方がまとめやすい

（まとめとして）

・地域によって「担い手」は違うもの

・究極は「市民」（すべてが含まれる）

・画一的に決める必要はない

・目指すべきものを考えればよく「理想論」でいい

・担い手になろうとする意識改革

・主体となる「担い手」　それを引っぱっていける「担い手」

‖　（すべての市民）　（リーダー）

まちづくりに参加する人

（市民が気持ちよく暮らせるように）

発表内容

・前回は欠席者が多く 5 人で議論をしたが、今回は 11 人出席しており、まず意見交換から始めた。
・その中のいくつかの意見を紹介する。
　・地域の住民感情としては、行政に頼る傾向が強いため、住民の意識改革が重要ではないか。
　・何か動き出すにはやはり行政ＯＢが入っていたほうが動きやすい面もあるが、その後は自立に向けた取り組み意欲を高めていかなければならない。
　・地域によってはまちづくりの担い手に違いがあり、地域事情にも大きな格差がある。担い手については多様なあり方があってもよいのではないか。
・担い手を考えていくと「まちづくりとは何か」ということにつながっていく。
・まちづくりには行政がやること、市民がやること、地区別にやることがあるが、それぞれに違う部分があり、整理することは不可能である。地域の個性を生かす観点から、一方的・画一的な方向性を整理することは望ましくなく、市の方向性さえあればそれでよいのではないか。
・今回は、様々な地域事情があるのは事実であり、まちづくりの担い手について画一的なあり方を探るのではなく、様々なあり方があってもよいのではないか、また、目指すべきものを考えれば理想論であってもよいのではないか、という整理に至った。
・市民が気持ちよく暮らせるという意味で「活動しやすい環境づくり」の仕方を自治基本条例の中に明記するのも 1 つの方法ではないか。

6班

ホワイトボード板書

まちづくりとは

そこに住んでいる人達を　楽しませる　よろこばせる　こと

＜既存の団体＞

1つの目的をもって活動している

⇒発展性につながらなかった

＜今までは…＞

団体として1つの目的・活動を行ってきたことで、

リーダーが育たなかったのでは？

＜これからは…＞

目的をもって活動している個人やグループ

情報発信ができる人が必要

↓

合併したことでリーダーのネットワーク

づくりが必要となる

まちづくりの担い手

まちづくりの達成感を味わう

・地域の課題の解決ができる

・自分の住んでいる町を愛している人　⇒　主体になれる人

・地元産業を継続している人

・伝統文化を次に伝えていくマイスター　（今までの文化を守りながらも　新しいことにもチャレンジしていく人）

・地場産農家

バックアップしてくれる組織　⇒　主体者を支えるしくみや体制づくり

自治体、町内会との連携

（既存の組織等）

封建社会のぶっこわし！

発表内容

・前回の話し合いを元にまとめていこうと話し合いを始めたが、まとめるのが難しかったため方向転換をし、まちづくりのキーワードを考えることから始めた。
・キーワードは「そこに住んでいる人達を楽しませること、あるいは喜ばせること」として話し合いを進めていった。
・「既存の団体」については、1 つの目的を持って活動しており、それがなかなか市全体を通した大きな発展性に繋がらなかったということが課題として見つかった。
・「今までは」、団体として 1 つの目的を持って活動を行ってきたことで、リーダーが育たなかったのではないか。
・「これからは」、目的を持って活動している個人やグループには情報発信ができる人が必要ではないか。例えば、地元産業を継続している人や伝統文化を継承する人、地場産農家、自分の住んでいるまちを愛している人である。
・この「自分の住んでいるまちを愛している人」というのが、まちづくりの主体になれる人そのものではないか。
・行政や町内会などをバックアップしてくれる組織、主体者を支える仕組みや体制づくりが必要ではないか。
・合併したことで、様々なリーダーのネットワークづくりや人づくりも大切ではないか。
・「封建社会」と書いたが、「今までの考えをぶち壊すぞ！」という心意気も大事ではないか。